

宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会

第3回会議 会議録

開催日時	平成25年10月15日火 午前9時40分～12時10分				会場	宮代町役場 202 会議室					
委員出席状況											
	氏名	出欠		氏名	出欠		氏名	出欠		氏名	出欠
1	野口 昌宏	出席	6	飯山 知美	出席	11	山田信夫	出席	16	上田 悟	欠席
2	松本 順子	出席	7	平井 紀子	出席	12	大塚 健嗣	出席	17	高田 祐司	出席
3	上野 雅子	欠席	8	唐沢捷一	欠席	13	小暮 滋	出席	18	鶴見 城二	出席
4	蛭間 和彦	出席	9	高柳英雄	出席	14	船橋 昭一	出席	19	宮部 達夫	欠席
5	鈴木 保弘	出席	10	山内靖子	出席	15	和井田節子	出席			
事務局											
教育長		吉羽秀男 /		教育推進課長		渡邊和夫					
学校教育室長		瀬田 浩									
教育総務室長		井上正己 /		主査		石井 栄 /		主任 元井真知子			
会議次第											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. あいさつ 3. 議 題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 宮代町の学校教育について (2) 視察候補地について (3) 意識調査について (4) 新議会広報について 4. 質 疑 5. そ の 他 6. 閉 会 											

1. 開 会

○船橋会長 皆様、おはようございます。

季節がよくなりまして、早朝からお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、第3回目になりますが、私どもの宮代町立小中学校の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会をこれより開催いたします。それでは、吉羽教育長よりご挨拶をお願いいたします。

2. あいさつ

○吉羽教育長 おはようございます。大変ご多用のところ、また早朝からお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

何か台風の接近等の情報もありまして、ちょっと慌ただしい状況でございますが、第3回目の適正配置及び通学区域の編成等に関する審議会、よろしくお願い申し上げます。

今日は3回目なのですが、この間、各ワーキンググループに分かれまして、委員の皆様方にはいろいろご審議をいただいたと伺っております。大変ありがとうございます。どうぞ本日も、この後の審議のよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

3. 議 題 / 4. 質 疑

○船橋会長 それでは、少し長丁場になりますが、議事に入らせていただきます。よろしくお願いをいたします。本日の議題は4つほどありますが、1番目の「宮代町の学校教育について」と2番目の「視察候補地について」の順序を入れかえますが、事務局、よろしいですか。

○井上室長 はい、本日、教育環境グループ上田リーダーから欠席の連絡をいただきましたので、同じワーキンググループ会議に出席しておりました私、事務局井上から報告したいと思います。

先立ちまして、本日配付した資料を確認させていただきます。5種類です。第3回会議のレジュメ、ワーキンググループの設置について、それから、資料1から3までです。よろしいでしょうか。

○船橋会長 よろしいですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 では、お願いいたします。

○井上室長 この後報告する資料2の前に、それぞれワーキンググループの会議で配付した「ワーキンググループの設置について」という資料をご覧いただきたいのですが、これは、各グループのリーダーの方、会長をはじめ調整いただいた結果を1つまとめたものです。ワーキンググループの位置づけですとかテーマ、それから今後の大まかなスケジュールについてご用意をしています。会議後に、一部修正したところもあると思いますので、確認をいただければと思います。

なお、この内容は、広報の野口副会長によりまして、この後、まとめていただいていると思いますので、その際にもまた確認をいただければと思います。

では、議題（２）視察につきまして説明します。資料２をお開きください。

事例研究ということで、視察地について教育環境グループで検討を行いました。打ち合わせ日は9月10日、役場204会議室、午後4時からということで、それぞれ担当の委員さんにご出席をいただいております、その中でまとめた結果の報告となります。

まず、候補地ですが、「再編統合に取り組んだ事例」、それと「多機能化を行っている事例」がポイントです。それともう1点が、物理的にこの「2つの趣旨、目的を1日で視察可能な場所」であることというのがひとつ、やはりどうしても出てきてしまいます。それと合わせて、余り昔の事例でも参考になりませんので、できるだけ新しい事例がよろしいのではないかとという点です。

こうした点を踏まえますと、多少地域的に限られてきてはしまうのですが、1枚お開きいただいて、3カ所候補地をご用意しました。

まず1点目が「茨城県稲敷市（いなしきし）」です。こちらは面積が宮代と比べると大変大きくなってしまいうんですが、既に再編計画というものを策定しまして、新しい学校の建設に今年度着手、来年4月に開校予定という事例です。また、この自治体はアンケート調査も実施しておりますので、こういった点でも参考になるかと思えます。アンケートの対象は、「保護者」「児童・生徒」それから「教職員」、この3者に対して実施しています。

参考までに、資料真ん中あたりですが、各自治体の学級数平均、それから大体の通学距離と面積を出してみました。自治体の面積を学校数で単純に割り返したものがこの校区面積というもので、それを仮に円と仮定して半径を求めたのがその下の通学距離の目安というふうにご理解ください。あくまで簡略化しただけですので、実際にはこれ以上、以下もあると思えますけれども、おおむねの目安になるかとは思っています。

その次2番目が「茨城県牛久市」です。これは前回の会議でも、先ほどの稲敷市同様資料をお配りしましたが、再編統合とは全く別で、「多機能化」、学校に様々な機能を付与しまして、かつそれを地域に開放している事例です。例えばプール、体育館、音楽室、家庭科室、こういった施設を、もちろん学校が使わないときに限ってですが、開放しています。あとはエコスクール、いろいろと緑化とか先進的な取り組みをしていますので、今後の目標になりそうなものが沢山ある事例として適切ではないかと考えました。

いま一つの多機能化の事例が、実は近くにあります「吉川市」、武蔵野線新駅ができて、この関係で1つ大きな学校が開校しています。ことしの4月からです。こちらもうやはり多機能化といえますか、公民館、図書室の併設、それから子育て支援センター、ふれあい広場、こういった施設を併設している学校になります。

グループ内でいろいろ話し合った結果、この3つがまずは候補として挙げられるのではないかと考えた次第です。中には、「宮代町とよく似た事例を」ということでご意見もあったんですが、なかなか面積、それから地理条件、重ね合わせるのが難しかったのも事実です。特に宮代町の場合は鉄道で分断されているという地理特性が確かにあるわけですが、鉄道以外でも河川ですとか広い道路、こういったもので分断されているというのは、これはどこの自治体でも事例としてはあると思えます。その辺を踏まえてごらんいただけるのかなと考えております。

ということで、本日この3自治体の中から、あるいはこういうことでご議論いただくのと、いま一つが質問事項ですね。資料の表紙に戻っていただくんですが、視察に伺った際に確認する事項、事前に情

報を提供しておけば、先方も細かな回答をご用意してお待ちいただけると思いますので、たくさんは必要ないと思うのですが、ポイントとしてまとめてみました。

まず1点目が「再編統合に至った経緯」、なぜ取り組んだのか、あるいはこれまでどういう手順を追ってきたのか、その過程で出た課題と、それをどのように解決してきたのかという点になります。これを本日、もっと具体的に聞くという意見があれば、その辺をつけ足していきたいと思っています。

いま一つが「通学区域の設定」です。実際にこの再配置、再編統合を実施した自治体で、当然今までと通学の距離、道のり、道、時間が変わってくるわけです。こういったものに対してどのように対応されたか。あるいは、先ほど申し上げましたが、道路ですか河川、鉄道で、どうしても子供が簡単に渡れないような地理特性、こういったものをどういうふうに反映したか、安全対策、そういう点ですね。

それと3番目は、主に「多機能化」になりますが、地域と連携をしている取り組みの内容です。それから、その施設の運用の仕方、それと稲敷市については、新しく学校をつくる際に地域を巻き込んだ設立準備会というのが設置されています。こういったものの内容についても今後参考になるのではないかとというふうに考えています。

最後、「小中連携」ですが、これは今回宮代町の、実は資料1の方で後ほど説明があると思いますが、小学校と中学校の連携、この辺の取り組みについてもご意見を伺う機会としてはよろしいのではないかとというふうに考えております。

以上、ここでは2点、「何処に行くか」、それと「どんなことを尋ねるか」について、本日ご議論をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○船橋会長 ありがとうございます。

今、事務局から3つの自治体の学校、小学校が主でございますが、実際に視察に行く候補地というのが挙げられました。そこでお諮りをしたいのは、まず、3市候補に上がっておりますが、ほかにあるならば、それをご紹介いただいて、なければ3市の中から、事務局、2市は行けるのですね。3市は無理ですか。

○井上室長 2市は視察できるよう候補地を選びました。時間的に3市は難しいと思います。

○船橋会長 わかりました。では、3市のうち2市をお選びいただくことで進めます。学校を選びますと、視察時の質問事項についても確認ができればと思いますが、その順序でよろしいですか。

〔意見なし〕

○船橋会長 特にご異論ないようですから、それでは、最初にまずお諮りします。皆さんのほうから視察する地域、あるいは学校について、特にこの学校をというのがございましたらご紹介いただきたいと思います。ここで事務局に質問ですが、前に私どもにいただいた新利根地区新設小学校の建設工事がスタートという見出しの資料、皆さんのところへもお手元にあればよいのですが、ご確認ください。

○井上室長 前回審議会で配付した資料ですが、本日、皆さんお持ちでしょうか。

〔全員持参を確認〕

○船橋会長 では戻ります、「特にこの学校を」というご紹介ございませんので、事務局が用意しました3市を検討するというところで進めますが、よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 ありがとうございます。では、茨城県稲敷市へ行くか、同じ茨城県の牛久市に行くか、埼玉県の吉川市に行くかということでご検討いただいておりますね、これは個人的な見解ですが、稲敷市の新利根小学校は、まずお考えいただきたいところです。それから、牛久、吉川、両方とも地域連携が入っている学校です、しばらく時間をとりますので、自由なご質問、あるいはご意見を出してください。

○蛭間委員 稲敷市ですけれども、まだこの小学校は開校されていないんですか。

○井上室長 新しい学校は建設中のためご覧いただくことはできません。むしろ稲敷市は、これまでやってきたプロセスといたしますか、手続きを主に何う意味があります。

○船橋会長 今伺いますと、来年の4月開校だと。

○鈴木委員 視察に行くのは何月になるんですか。

○井上室長 当初、11月と申し上げていたんですが、なかなかハイシーズンでバスの手配がつかないので、12月から1月にかけてという感じになると思います。

○鈴木委員 牛久市と吉川市はもう完全にでき上がっているんですね。

○井上室長 はい。

○井上室長 牛久と吉川の違いというかポイントは、吉川はどちらかというのと併設ですよ。牛久は学校の中の施設を外が使っていることがポイントになっていますから、例えば音楽室とか家庭科室ですから、それがきちんと運用できているのか、というのは我々としても非常に気にはなる点です。敢えて言うならば、そこに違いがあると思います。

○鈴木委員 資料のこの後にプランがもう入っているじゃないですか。

○井上室長 参考に、たたき台をご用意しないと何も進まないかなと思いついてはみたんですが、位置的には両方行けますよね、可能です。

○鈴木委員 これ吉川市だけ別の日に行くという予算がないですね。

○井上室長 (バスを仕立てて) 全員だと難しいのですが、希望を募って、ワゴン車で行くなりそういう工夫も考えられます。

○鈴木委員 それぞれ特徴があるならば、この前のワーキング会議じゃないですけども、(我々)しっかり真剣にやっているのです、例えばここは、茨城県2つはバスか何か出していただいて連れていってもらったとしても、吉川市ぐらいなら自力でも行けなくないので。

○井上室長 有志を募るという方法と、もうひとつは私ども事務局が代行して視察を行って、そのデータ等を写真でも映像でも提供するという方法も考えられます。

○鈴木委員 10人ぐらいだったら車を出しますよ。

○井上室長 審議会としての視察ですので車は町で手配します。また、吉川市なら半日で行けると思いますので。

○鈴木委員 ですよ。だから、事務局のプランでとりあえず全体的なのは、何がダメとかいいというよりは、それぞれいいならば、このまま1回行かせていただいた方がよいのではないかなと思いますね。

○船橋会長 そうですね、まず遠いところはバスを出していただいて、もう一つは自主的に行く手もあるなど、そんなことを考えました。他の委員さんはいかがでしょう。

○山田委員 是非そうしてほしい。

○船橋会長 要は3つとも行きたいということですね。

○山田委員 はい。

○船橋会長 では、町のお世話になるのと自主的に行く方向で、PTAの皆さんはいかがですか。

[「そうですね」と言う者あり]

○船橋会長 吉川市なら半日で行ってこれますね、子供たちが学校に行っている間に視察を済ませることができればよいです。

○鈴木委員 委員は全員で何人でしたか。

○井上室長 委員さんが19名です。これに、事務局もお供しますので、28人乗りを1台の予定です。

○鈴木委員 吉川市の場合はどうなりますか。

○井上室長 吉川市はワゴン車2台程度でと考えています。

○鈴木委員 役場で出せる公用車両はあるのですか。

○井上室長 はい、可能です。

○鈴木委員 足りなければ私も出しますから大丈夫です。では行けそうですね。

○船橋会長 どうでしょうか、これまでの意見では3校を視察の対象にしたいというのがお考えのように受けとれます。そのうち2校については事務局のお計らいいただいて全員で行くと。もう1校、吉川のほうは幾つかの車に分乗していくというのがあるんじゃないかと、そんなお考えが出ております。鶴見委員さん、いかがですか。

○鶴見委員 別段意見はございません。ご意見の出ている主流のお考えでよろしいんじゃないですか。

○船橋会長 よろしいですか。茨城県は全員参加で、吉川市は別途希望者を募ると。

○船橋会長 そうですか。お隣の高田委員さんも。

○高田委員 同じですね。

○船橋会長 同じですか。

○高田委員 違うところといっても、距離は無理ですよ。

○船橋会長 吉川市は近いですからね。

○船橋会長 電車でも行けますから、それとあと、お伺いしていないのは高柳委員さん。

○高柳委員 結構だと思います。

○船橋会長 そうですか。そうすると大体大勢が決まりました。和井田委員さんいかがですか。

○和井田委員 もうそのとおりです。意見なしです。

○船橋会長 では大筋まとまりましたので、初めの2市、稲敷市、それから牛久市のひたち野うつくし小学校、この2校を1日で皆さんで視察をします。それから別に考えて、別の手だてで吉川市の学校の

お名前が吉川美南（みなみ）小学校、ここをお訪ねするということになります。今2校決まりましたから、決めやすいほうで、質問事項の見出しの項目の確認をお願いします。

視察時の項目が4つございます。先ほど事務局からご説明があった内容がそこに上げてありますので、これはあらかじめ先方に伝えるということにしたいと考えますので、どうぞご確認をお願いしていただいて、追加、あるいは修正がありましたらご提案いただきたいと思います。お願いいたします。

○鈴木委員 井上さん、11月の視察は絶対無理ですか。

○井上室長 絶対とは申しませんが、調整させてください。

○船橋会長 よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 それでは、順次項目を確認してまいります。1番目の再編統合に至った経緯などというところで5つ挙げております。一応質問の趣旨の見出しとして挙げております。これについてどうでしょうか。背景、趣旨、経緯、問題、5つ目の再編統合による変化というのは、これは結果的にどうであったかという内容かと思えます。そういう意味では、評価事項を伺うということになると思えます。よろしいですか、追加ないですか。

○和井田委員 いえ、ないです。

○船橋会長 よろしゅうございますか。それでは、皆さんに一応ご確認しますが、校長先生方、最初の項目、いかがでしょうか。

○大塚委員、小暮委員 結構です。

○船橋会長 それでは、ほかの委員さん、よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 では、項目1についてはこの5つの項目を先方にお伝えすることにします。2番目、通学区域の設定、そこに3つ、再編統合後の通学距離と時間の変化、これはデータをいただければわかるかと思えます。それから、この広幅員道路、河川、鉄道ですね、これは該当しますか。鉄道はもうないんだとわかっているのですけれども。稲敷市は道路がありましたね。

○井上室長 はい。

○船橋会長 牛久市は（広い）道路ありましたか。

○井上室長 牛久市もありますが、ただ再編には取り組んでいませんので。

○船橋会長 そうですか。吉川市のほうは、これは駅の関係ですね。

○井上室長 吉川市は新駅に併せた開校です。

○船橋会長 そうですね。そうすると、一番私たちに関心のあるのは3番目ですか、安全対策。

3つの項目ですが、追加事項がございましたら。この前、学校教育のワーキンググループでお話のあった須賀小、須賀中のところのグリーンベルト。あれは視察先にあるんですか。

○井上室長 グリーンベルトは、緑色の歩道ですね。それはやっているとは思いますが、質問項目に追加しておきます。どのように聞けばいいでしょうか、聞き方を教えていただければと思います。

○野口副会長 児童生徒の安全対策の中にこれ含まれると思うんですけども、通りのあるところというのは歩道ができるんですよね、広幅員のところは歩道ができて、歩道があっても危ないところは危ないですけども。それができない狭い路地ですか、須賀小中の前みたいなああいう場所で。ああいうところに安全ゾーンというのでグリーンベルトをつくっていますので、質問の中の児童生徒の安全対策という中でそういう幅の狭い道の、でも車が通る道はどういう対処をしているのかというのを質問にさせていただけたらと思います。

○井上室長 わかりました。

○船橋会長 それでは、2番目の通学区域は設定項目3つでよろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 では、ご異論ないようですから、これに決定をいたします。3番目、参りましょう。

3番目は、地域連携ですが、多機能化が含まれております。地域の皆さんとの連携の取り組み、それから学校施設開放の運用。地域の皆さんとの連携の取り組み、これはむしろ学校施設の運用、牛久と吉川両方ですね。それから設立準議会、これも運用のほうに関連してくると思いますが、ここところは地域連携であります、内容としては行政、つまり教育委員会の公務にも関係してくるところであります。例えば具体的な例を申し上げますと、私がひとつ関心あるのは、吉川美南小の学校の中に公民館、子育てセンター、高齢者ふれあい広場で、これはこの町の役所の中の所管でがまたがりますか。他の福祉などと。

○井上室長 はい。

○船橋会長 またがりますよね。そうなりますと、町の中で、例えばこの三者の連携を図る必要があるわけですね。そういう意味で大事な質問の内容になろうかと思えます。

ついでに、P T Aさんのほうで考えますとどうでしょうか。学校行事、それから学校教育、安全教育、そのことで大きな見出しが抜けていたら出していただきたいんですが。安全のほうは上にあります。この応援団、応援団で何か。連携の取り組みでいいですか。

〔「そうですね」と言う者あり〕

○船橋会長 学校評価はどうですか。これは学校のP T Aさんと学校評議員さんですか。学校評価は、学校と保護者の皆さんの間で、ですか。

○渡邊課長 はい。

○船橋会長 これは、学校評価の公表は、ほとんどの学校で実際取り組んでいますね。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 宮代はもちろん全校取り組んでいるんです。だから、宮代はもう十分でき上がったルーティンワークになっているといたしますか。

○和井田委員 つけ加えるとすれば、その2つの学校が統合したときに、どんなふうに最初やっていたか。例えばクラス編成であるとか、学校の先生たちの何か分担であるとか、あるいはカリキュラムの持っていく方であるとか、その前の準備段階で2つの学校がどんなふうに交流してソフトランディングしたかという、何ていうのか、学校教育グループのほうから出すべきだったんですけども、ちょっとそのあたりも、もし聞けたら、再編統合に至った経緯の中に…

○船橋会長 ちょっと調整をしますが、今のご趣旨は、1番目の項目3つ目、検討過程で生じた問題、課題の中に含めて考えるか、あるいは今、何とおっしゃいましたか、最後のところは。

○和井田委員 ソフトランニングですか。

○船橋会長 いや、その前におっしゃった、キーワードを忘れてしまいました。統合に進む過程の中で起きた……

○野口副会長 事前準備という形ですね。

○和井田委員 そうですね。

○船橋会長 わかりました。和井田先生、そうしますと、設立準備会、これ稲敷市と書いてありますが、ここの言葉を変えましょう。何かちょっとそこを、設立準備、ここはどうでしょうね。

○井上室長 稲敷市にはこういった組織があって、学校を新しくつくる時に地域の皆さんも交えてど

んな学校にしようかとやっただけなんです。それは聞いておいたほうがいいだろうと思います。

それで、今、和井田委員がおっしゃった件は、再編がもし決まったときに、2つの学校が1つになるわけですから、「それぞれの学校がその日を迎えるまでどんなことをしてきたか」という点を確認という理解でよろしいですか。

○和井田委員 そうですね。それから、入ってから1年、多分全然違う学校が解け合うためのどんな工夫をしてきたかという点です。

○井上室長 承知しました。資料の中で、(1)の中で確認したいと思います。

○和井田委員 はい(1)の中で構わないので、ちょっとその部分を。

○船橋会長 言葉をつけさせてもらいますが、統合過程の中の課題と解決ということでもいいですか。

○和井田委員 そうですね。課題と解決の中に、複数の学校が統合する場合の準備や統合に向かう工夫ですね、ちょっと何となくこの行政とか、ここへ持っていくまでの制度を中心に置いているので、学校の中身の工夫についてもちょっと視点を入れていただければと思います。

○船橋会長 「複数校の統合過程の課題と解決」でいいですか。

○和井田委員 「準備と」が入ります、「複数校の統合に向けた準備と統合後の工夫」です。

○船橋会長 準備と統合後の…

○和井田委員 教育上のことです。「複数校の統合するに当たっての準備と統合後の教育上の工夫」。

○船橋会長 今までの見出しから見ますと相当具体的なことでありますので、どこに入れるかはご検討ください。言葉の精査は別にして、複数校の統合準備と統合後の教育上の工夫、それも言葉をちょっと。

○鶴見委員 いろいろと手法とか。

○和井田委員 それこそ校章をどうするかとか、学校の名前をどうするかからも、もう本当に大分前から……

○船橋会長 それは和井田先生、3番目の地域連携に入れますか。

○和井田委員 どこでもいいです。でも、ただちょっと立てておかないと、この中から外れてしまいそうな気がしたので。

○船橋会長 そうなると、1番目ですね。では、1番目に追加してください。
皆さん、よろしゅうございますか。

[「はい」と言う者あり]

○船橋会長 和井田委員さんのおっしゃった複数校の統合過程と、その準備過程と統合後の教育上の問題解決というような内容を入れましょう。

○野口副会長 検討過程で絶対あれなんですよ。

○船橋会長 あるんですよ、そうなんです。

○和井田委員 そうなんです。

○船橋会長 それはなかなか聞き出しにくいから。

○和井田委員 最初から書いておくと。

○船橋会長 もう覚悟して言いますと。

○和井田委員 渡しておくんですね、事前にこういう質問をするからと。

○井上室長 当日いきなりですと先方も答えられないこともあります。お互い時間をもったいないですから項目として出させていただきます。場合によっては後で資料となるかもかもしれませんが。

○船橋会長 それでも結構です。

○井上室長 項目にないと当日聞いてはいけないかということではありません。時間の許す限り、皆様もいろいろ聞いていれば考えるところもあるでしょうから、足してください。

○船橋会長 ありがとうございます。充実してまいりました。もうちょっと頑張りましょうね。では「小中学校の連携」、これは見出し1本ですが、校長先生方、まず。

○大塚委員 小中学校の連携というのは、うちの町は進めている内容ですので…、確認を。

○船橋会長 宮代のほうが進んでいるようですね。

○鶴見委員 こっちは10年先です。

○大塚委員 まだ、一緒になって中学校に行ったり、小学校と一緒にいるんでしょうから、そこでの特色といいますか、それを生かしてどういう連携をしているかということは、新しい発想とか、そういう学校をつくって連携している内容があればお聞きしたいです。

○船橋会長 小暮先生、いかがですか。

○小暮委員 再編統合に向けた小中の連携の取り組み状況、統合に向けて小中連携という…

○船橋会長 もうそれは今、再編統合に向けたという言葉は、私たちのこの審議の全てにかかってくるよ。言葉を入れますか。

○小暮委員 ふだんの小中の連携だと、全体的にもうやっていることなので。

○船橋会長 ええ、それ、ちょっと話題も変わってきますね。

○小暮委員 はい。ほとんど本町でやっているものと同じになると思うんです。

○船橋会長 再編統合が必要な場合、このことはどうなんでしょうか。鶴見委員さんもお言葉いただいたほうがいいんでしょうか。

○鶴見委員 小中一貫教育とうたって連携を密にするということは、この町が日本で一番進んでいるんじゃないかというぐらいな気がいたしておりますので、あえて新設校に行つて何うようなテーマでは、こっちが教える立場ぐらいだと思っています。

○大塚委員 今おっしゃったように、そういうことを例えばこの審議会でも小中の一貫教育ということは前提としての今話し合っていることは、そういうことは前提として話し合いをしているということでの確認なんですけれども。

○船橋会長 本町の場合は先生がおっしゃった再編統合にという言葉が少しひっかかっておりまして、それをに入れておくか。それを抜くと、こちらの見出しのほうが風呂敷は大きいんです。

○和井田委員 一般的にですね、再編統合全国的な流れの中で、実は小中一貫が小学校を統合するための方法として使われている、全国的にはそういう例というのがすごく多いんですよ。だから、最初に小中一貫しておいて、それでそのまま1校にしてしまつとかね、そういうところが多いので、こういうときに小中連携というのが統合の際に1つ柱立てで使われることが多いんです。ですけれども、宮代町は全然そんなつもりでやっているわけじゃないので、かえつて誤解を生みますので、この4番はもしかしたら削つてもいいかもしれません。向こうが書いて、向こうがそういうつもりで出してくるかも

しれませんけれども、それは向こうの考え方ということで、参考意見として聞くということで、町民に誤解を生んではいけないので、外してもいいかなと思います。

○船橋会長 そうすると、鶴見委員さんのお言葉をいただくと、心配しなくていいよということになると思うんですけども。

○鶴見委員 ただ、学校の数、校区が変わってきたときに、今まで培ってきたこの町としての特色をそのままうまく継続できるかなという疑念は湧いてきます。本件、今議論しているこの件とはちょっと切り離された別のテーマになりますよね。

○船橋会長 ちょっと脱線して恐縮ですが、私の手元にある、ちょっと町の名前を、福岡のほうでしたか、ちょっと忘れてしまって大変恐縮ですが、行政の都合で合併したんですね。合併して旧町に3校、この前もちょっと申しあげた、旧町、もう一つの3校、お互いの学校6校が、学校間の距離が400メートルでずっとこう合併後、学校が開かれてきて、中学校も同じなんですね。今のごく近いところにあるという。さて、そこで6校の学校を3つに、何とかうまく誰も、みんなが喜んでもらえるような、そういう計画できないかなとやって、さっきの小中連携じゃないですが、その6校のうち2校の子供たちを残り4校にうまく入れて、今度中学校をまたうまく入れるということに、随分時間をかけてやりました。その中で小中連携というのがきっと話題として入っているはずなんですね。

だから、今、和井田委員さんがおっしゃったように、宮代の教育の第一の特色は、もう小中連携はわかっていることですから、場合によっては4番目は外してもいいかもしれない。むしろ私たちのほうが先進だよと。

○高柳委員 やはり私はその辺をどういうふうに考えていくのか、あるいは実施していくのか。やはり必要だと私は思いますね。

○船橋会長 そうですか。

○高柳委員 その大小にかかわらずです。

○船橋会長 少し迷うんですが、せっかくのチャンスだから入れておいてもいいなとも思います。

○和井田委員 例えば2番の中に含めてはどうでしょうか。通学区域の設定とかという中に小学校と中学校の連携の取り組み状況を入れて、大きく柱立てすると、それだけで大きくなるので、2番とか、あるいは3番でもいいんですけども、少し小さな扱いで、向こうの情報が入るような形で入れてはどうでしょうか。

○船橋会長 宮代町でいうと、向こうの多くの中学校さん、前中と百小ですか、百小さんと前中、あるいは東小と笠原、百中ね。そういったところの若干関係が出てきますので。そうですね。通学区域とい

うことで考えるならば、話は切り出しやすいですね。

皆さん、いかがですか。言葉を改めないで、通学区域の中に入れてしまうという考え。お答えになる事務局のほうですね、これは何だとちょっと考えますね。単にこの小中学校の連携とやると、これ教育のいろいろなことの1本になりそうな気がしますので。議長としては、2番目のほうに項目を移すということでお諮りしたいと思います。よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 では、皆様、よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 では、4項目の「小中学校の連携」は、見出しをとってしまって、中身を通学区域の設定の中に移すということによいかと思います。それでは、ただいま10時半になりましたので、5分ほど休憩をいたします。この後、事務局でご用意いただいたモデルプランをもとに具体的な日程のご検討をいただくことにします、お願いします。

〔休 憩〕

○船橋会長 それでは再開しましょう。事務局、よろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 先ほど最初に視察3市をお決めいただいて、2市、1市別々に行こうということにしたんですが、今休憩の間に、いや、待てよ、そんなに流暢なことよりも、1日でやってしまえという声もまた出てきましたんです。さて、どうするかと…

○鈴木委員 ひとつの意見として、ほぼボランティアでしているので1日で済んだほうがスッキリして、お母さん方も1日で済むなら楽は楽なんでしょうが、真剣にいろんな問題を聞かせてもらおうとするならば、多分3市とかで予定しておいても、質疑応答とか何かしていると意外と時間が押してしまって、2市だって、一杯いっぱいになるので、分けてもいいのではないかなと思います。

○船橋会長 当初の考えどおりでいくか。

○鈴木委員 ただ行って学校の背景を見てくるだけだったら、宅急便みたいに配達で回るんだったら、1日で3市を回るのは簡単なんですよ。ただ、行く意味としては、向こう側の関係者といろんな協議をさせてもらって、意見も聞かせてもらって、よりいい意見を聞きだして、うちの町のためにというので代表として行くのであるならば、時間を優先にするか、内容を優先にするかという協議でとったときとしては、どうせ行くならば、やっぱり内容をちゃんと吟味、聞かせてもらった上で収穫を持って帰りたいというのを前提にしたときには、ちょっと3市だとすると、ただの何か荷物の配達ではないので、野口さんが言っていることも分かりますが、何か余りにも、行ったけれども何だったかねで終わってしまうのが一番怖いなと思いますね。

○船橋会長 少し漏れましたが、お話を伺って、当初の考えのとおりにいたしましょう。茨城県2市について1日、吉川市のほうについて1日。それで、考え方として、茨城のほうに行くのには全委員と事務局で行くと。吉川のほうへ行く場合には、場合によっては、これは個々の車を工夫していきます。場合によっては何人かの方のご都合がつかないかもしれませんが、行った者が詳しくご報告をするということにいたします。それでよろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 ありがとうございます。それでは、そうなりますと、ここにあるモデルプランの流れが1つと考えていいんですね。吉川市が別になりますから。

○井上室長 ある程度ゆとりを持っておりますので、できるだけ圧縮、頭はできるだけ遅く、帰りも早く考えたいと思いますが、1つ目安としてお考えください。お願いします。

○船橋会長 相手の対応いただく方は向こう任せですか。

○井上室長 はい、お任せせざるを得ないと思います。

○船橋会長 学校をお訪ねすると校長先生か教頭先生か、プラス町の教育委員会までご出席くださる、対応くださる。

○井上室長 そうなると思います。

○鈴木委員 あと1つ、事務局にお願いがあるんですけども、さっきの日程についてなんですけれども、ちょっとPTAのお母さま方にも話を聞いた上でなんですけど、吉川の場合は、ある程度行ける方という限定でというところなんで、自由に設定していただいて結構だと思うんですけども、12月が1月と最初冒頭のほうで、予定でこのぐらいかなという話で伺ったんですけども、受験生を持つお母さんがそのとき、やっぱり私立高校とかの説明会だとかあれがあるので、一度、わがままになってしまうかもしれないんですけども、申しわけないんですけども、行かれる委員の、どうしても大体高校だと受験日がこうとか願書提出日がこうだとかとわかっていると思うんで、この日だけは遠慮してくださいという意見だけはちょっとくみ取っていただいて、それ以外で日程をとっていただけたらなと思います。

○井上室長 承知しました。

○船橋会長 今のお話で、日程について一番気になるのは和井田委員さんとPTAの皆様ですね。それから、私含めて皆さん方は時間のやりくりはつきますか。日にちのやりくりはつらい場合もありますけれども、時間のやりくりはつく、もしご協力いただければ、主にお考えいただくのがPTAの皆さんと

和井田先生のご都合に合わせて。

○井上室長 事前に日程の確認をさせていただきます。

○船橋会長 その調整は、では、野口副会長さんに音頭取りをお願いしますので、一致したお考えを事務局のほうと調整ということで、日程はそれでお出しいただいて。それから、時間等でも、訪問予定は、大きな流れはこのモデルプランの中だろうと思いますけれども。これについてはいかがですか。最初に稲敷市へ行って、帰りに牛久市に行く。こういう予定になっておりますが。

○鈴木委員 8時集合は大丈夫ですか、お母さん方は8時、大丈夫ですか。

○井上室長 もう少し遅くもできると思いますが8時半にしますか。

○飯山委員 大丈夫です。ただ、朝が遅くなって帰りが遅くなるんだったら、朝早いままで帰りを早くしてもらった方が良いです。

○松本委員 そっちのほうがいい。4時までには家に帰っていないと…、ほかに父親とか祖母がいる日だったら構わないんですけども、それ以外だったら4時までには確実に帰っておかないと。

○船橋会長 そんな気もします。

○鈴木委員 井上さん、常磐道で柏インターと書いてあるんですけども、もうちょっと予算を組んで、例えばですよ、東北道で久喜インターまでつけるというのは予算出ないですか。

○井上室長 可能な範囲で考えて見ます。

○鈴木委員 どうせ行くんだったら内容を充実させたいんですよ。けれども「早く帰りたい」というお母さん方の意見もわかるんですよ。費用対効果で考えると、常磐道インターから下道で帰るよりは早いかと。

○井上室長 時間はできるだけ詰めるようにします。逆に8時スタートが可能であれば、それに合わせたできるだけ早い日程を詰めたいと思いますけれども、よろしいですか。

○鈴木委員 昼食も車中で摂ればこの時間結構詰められますもんね。

○井上室長 わかりました。今伺いまして、8時スタートが可能そうなので、これを基軸にできるだけ早く戻れるプランを考えます。

○船橋会長 さき程申し上げたように、日取りと時間設定は、PTAの皆さんのお考えですね。特にお母さん方のお考えを入れて決めてください。

○鈴木委員 圏央道はどこまでつながっていますか、柏まで出ないとだめですか。

○井上室長 配付した地図ではつくば市のほうへ少し出たところで、このオレンジ表示ができていない区間なんです。何か所かありますけれども。まだ全部つながっていないんですよ。

○鈴木委員 久喜までつながっていたら楽でしたね。

○船橋会長 この件はちょっと中途半端ですが、事務局のほうに調整をお任せということで。

○井上室長 この後、日程、行程、調整します。

○船橋会長 お願いします。それでは、ちょっと頑張りましょう。4つありますので、和井田先生に学校教育についてご説明をお願いいたします。では、次に移ってよろしゅうございますか。

〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 きょうの議題（1）に戻りまして「宮代町の学校教育について」、和井田委員さんからお話しいたします。

○和井田委員 では大体30分ぐらいを目安にやりたいと思います。よろしくをお願いします。

このワーキンググループで集まって、委員14名が参加してですね、本当にすごく温かい雰囲気です。笠原小学校、もう何時間ですかね、6時間くらいね、その後の懇親会もやると、何とすばらしい人たちなんだろうと思うぐらいに宮代町の未来に対する熱い思いが語られまして、何かここから何か生まれ出ているような感動を覚えました。こういう人たちがこの宮代町の教育を支えているのだなということを改めて思い、私はその後、結構全国いろいろ、こんな感じでいろんなところでお話聞くんですが、宮代すごいよと宣伝してまいっております。やっぱり宮代は町全体で子供を支えているんだなというふうに思いました。そういうわけで、このまとめをごらんになりながら、この流れ全体を見ていきます。

それで、今回の「宮代町の教育の未来」のほうなんですけれども、これは、まずは7つの学校が自分のところの特徴を出し合いながら、それを何か宮代町の特徴につなげていって、そして、特にどんなことがあっても大事にしなければいけないものというのをある程度押さえて、それから、これから先、こっちの方向を頑張らなくてはいけないなというところを本当に教育のソフトの面で考えていったんじゃないかなというふうに思いました。

この先、この「宮代町の教育を考える」を、きょうこのご報告をして、そして皆さんからちょっとご意見を伺った後、多分これを少しもんでいくことになるんじゃないかなというふうに思います、このワーキンググループで何度かね。またこの全体会をしながら、またワーキンググループでもむと、そういうふうなことをしながら、未来のすばらしい宮代の教育に向けての何かビジョンが浮かび上がったらい

いなと思います。そして、そのビジョンに向けていろんなものが動いていけると、本当にブレないこの先の宮代の教育を支えるものになるんじゃないかなというふうに考えました。そういう意味では、この第一歩はすばらしい1日だったなというふうに思っております。

その辺も含めまして、資料に沿ってご報告していきますが、皆様方の中で、これを見ながらですね、ちょっとやっぱりここは本当にそうだなと思うところを少し考えていただくということと、それから、ここはちょっと違和感があるなというところも考えていただく。それからあと、さらに意見があれば言っていたらということ、ここに参加しなかった方も、ここに供用しながら先に進めていきたいというふうに思います。そういう形でごらんいただければと思います。

では、この書き方ですが、それぞれの学校の固有名詞はあえて抜いています。そして、抽出するような形で事務局が加筆してくださいました。私も固有名詞を抜いて、それで抽出するような形でお話をさせていたきたいというふうに思います。

まず、「学校の立地」ということですが、学校それぞれいろいろありまして、とても便利だ、それからとても不便だ、新しくてすごくすてきだ、新しいというか、工夫されていてすてきな校舎だ、いや、とても古くて苦勞しているとかいろいろありました。そういう中で、宮代の自然環境を生かしたいというところがいろいろ出てきて、それから、小中連携だからできている、やれているようなところがあり、工夫されているところが確認されました。

これは個々の学校によって違いますので、お読みになって、ここの中学校かなというふうに思っていたらなと思います。参加者は、もう全ての学校の関係者と保護者の関係の方もいらっしやっていたので、かなり網羅されていると思います。

続きまして、「通学路」のところなんです、やっぱり安全性について考慮している学校の話が結構中心になります。それから、そういう中で、前は学校監視員がいたから助かったんだけどもという話も大分出てきて、この後、統合とかいろいろなことを考える上でも、子供の安全性と通学距離はかなり考える上でのポイントになるんじゃないかという感じのお話になりました。特に不審者とかそういうのは、多分町なかの学校に、ここも町じゃないとは言いませんが、都会の大都会の学校に比べると、本当にいい人が多くて、安全な見守りがとても多いと思うんですが、しかし、それにしてもこれから先の時代の移り変わりを考えると、かなり子供の安全を守るという視点はさらに強めていかなければならないだろうというふうな話で進みました。

続いて、この学校の自由選択については、中学校を自由に選択できるというところがですね、子供たちは必要に応じて自由に選択していて、その自由の選択を支えているのが7つの学校がみんな余り差がないというところが支えているんじゃないかなというふうな話が出てきました。ですので、その7つの学校が大きな差がなく、みんな落ち着いていい教育をしていて、そのいい教育をしていく中で、ちょっとさらに特徴のあるところで、自分の力を生かせるところを選ぶ。そして、その選んだ子供が不利益をこうむることなく、また伸び伸びと活動しているというお話があり、それはですね、宮代の子供たちは町全体で育てるといふ雰囲気づくりになっているのではないかと思います。

そして、私は、この宮代の子供たちは町全体で育てるといふ、これはとても大事なキーワードだなというふうに考えています。この町全体で育てるといふ、競争ではなく、みんなでいいところをとり合いながら、みんな支え合いながら、じゃ、それぞれの特徴をみんなが知っていながら、町全体をいいものにしていこうという、この町全体で育てるといふのは、これから先も宮代の町の教育をいろいろ変え

ていくことになっても、ここは譲ってはいけないところかなというふうに思いました。これは自由選択から生まれたとはいえ、この宮代の町のすばらしい特徴の一つだというふうに。

課題としては、生徒数が少なくなった学校は部活で苦勞しているというふうなところがありました。学区内の進学者がこの先、先細りしていくというところがもう見えてきたものがあり、学校全体の清掃分担が行き届かなくてちょっと苦勞しているというふうな話も出てきました。

やっぱり子供の数が減ってきているということは、ちょっと不自由を強いられているというところもあるということで、この課題については、統廃合の原因、ある程度の理由づけにはなるとは思いますが、10年後を目指してということだけではなく、今解決できる方法があれば、例えば部活を合同でやる機会をふやすだとか、行事を合同でやる機会をふやせたらとか、今解決できることが少しでもあるんだしたら、今の子供たちにできることはないかというふうなことも少し考えていかなければいけないのではないかと思います。

続いて、次のページを開いていただきたいと思います。

宮代町の教育ですけれども、これは、私は他の自治体をいっぱい見ておりますので、声を大にして言いたいんですけれども、学校差がなく、ほかの地域より研究熱心というのは全くそのとおりです。そして、子供たちが落ち着いて学習している。これはお父さん、お母さん方から、昔は違っていたんだという話がいっぱい出てきて、かつてすごく荒れていたというのは出てきましたので、これは地域として昔からそうというわけではなく、地域と、それから先生方のご努力によって保たれていることで、そしてどういう努力によって保たれているかということをちゃんと自覚しておかないと、下手なことをやると、荒れる要素も持っているということも感じました。

そして、そのキーワードになっているのがバランスと調和ということで、ここをよく考えているということなんだろうと思います。特にこの当たり前の教育をしている、そして自然と調和している、そしていろいろ、「農のあるまちづくり」なんですけれども、これは「ブレイン（脳）」についての意見もあったと思います。でも、農業もあるなと思いますので、いいと思いますけれども。

そういうふうな科学的根拠を入れながら、いろんな取り組みをしている。そして、この本当に研究熱心ですね。これはぜひこのまま進めていっていただきたいと思いました。

それから、サマースクールや寺子屋制度、中学生や小学生の支援とか、そういうふうなことで、学力と向上を図っていくと。これはよその地区でも結構最近はやられていることだと思います、宮代だけでなく。しかし、やっぱりここにしかない、Kids ISOみたいな、これはあちこちで、これは本当にすばらしい取り組みであるということは聞きました。それから、俳句づくりとか、学校独自の教育活動で骨太の学力を育む、これをどんどんやりながら、もっと外にいい教育というか、外にアピールしたらどうか。学力調査結果を出すことはできないけれども、こんなことをやっているということは外にアピールしたらどうかという話もありました。それによって教育の町であるということを外にアピールし、それだったら宮代で子供を産もうという人がいっぱいあらわれると、問題も解決するのではないかというふうな話も出てきました。そして、そういう中で、例えば、その他のところでいろいろな地域や、それからいろいろなイベントの中で子供たちを育てようとしているというところがありました。

続いて、3ページ目に行きたいと思います。

いろんなところで縦割りをやっておりまして、この縦割りが、子供の数が最近少なくなっている、この子供たちにとってもいい影響を与えているということが出ていまして、もちろんこれは放っておいてで

きるわけではなくて、先生方の仕掛けというのが功を奏しており、そして保護者の皆さんのそういうものに対する理解や期待というものが相まって、そしてこれが歴史的に積み上がってきているところであろうと思われました。

続いて、小中の連携、これはもう言うまでもないですね。後のほうでも出てくるんですけども、主体的、自立的な授業をというふうな意見が出てきまして、やっぱり意見発表が苦手だというのが出てきたりとか、それから、自分で工夫していろいろ学びを自分で深めていくというふうな力がちょっと少ないとか、穏やかでとてもいい子たちなんだけれども、ちょっと受け身じゃないかというところがこの子供たちや教育の中で、やっぱり課題としていかなければいけないのではないかというふうなご意見でした。

これに対しては、やっぱり研究熱心なこの町ですので、今既にいろいろな学校で研究テーマとしてやられているというふうに私は理解しております。これも表に出しながら、今解決することは解決しながら未来につなげていく必要があることだろうというふうに思います。

それに関わって、4ページ目の上のほうに、さらに「生きる力をはぐくむ」。さらにいろんなことをやっていったらいいのではないかということの必要性と、そういうことを本当に生かすためにも、地域にわかりやすい学校目標をつくって、そしてその地域中の人がこの学校はこんなことで頑張っているんだよということを知られるような、そういうようなことも考えていったほうがいいんじゃないかということで、このあたりに関しては、10年後にということではなく、今からでも少しずつ頭に置いてやれることをやっていけるんじゃないかなというふうに思います。

また3ページ目に戻ってください。

あと、やっぱりいいところは、「挨拶や礼儀は身につけている」、授業態度がとてもよく、本当に素晴らしい学校で、先生方が宮代に転勤したいと、転勤した先生がよそへ出ていきたくないという、そういうふうな話もとてもあるという、そういうふうな話も聞いてきました。それは本当に誇りに思っているんじゃないかというふうに思います。

そして、それはやっぱり保護者の皆様のご支援というのが大事、とても大事になっていると思います。家庭と学校が一体となって同じ目標を向っているということは良いことだと思います。

ただ、これとちょっと関連して、しかし、保護者と学校と子供たちにしか目が向いていなくて、その外側の地域というところの視点がちょっと希薄ではないかというふうな意見も出てきました。例えば子供は卒業したけれども、今度は手伝いたいという意見であるとか、それから、それこそ宮代の町を宮代全体で育てるのであれば、我が家に小学生や中学生がいなくなると、何らかの形で育てたいときに、何かどのようにかかわっていいかわからない。そういうところになるとちょっと何か学校というのは入りにくいというふうなところがあり、それは安全とは別の意味で少し考えていくことではないかというふうな意見が出てきました。

そして、特にそれと関わって、ここは宮代町ですので、小中が対象ですから、それは仕方がないと言えば仕方がないんですが、こんな小さな学校は7つしかない地域に、義務教育学校が7つしかない地域に全ての校種が、幼保、小中、高、大、全て、特別支援学校があると、その全ての学校があるということをもっと誇りに思い、もっと交流を考えていいんじゃないかというふうな意見も出てきました。

特に、連携できるところを連携しながらやっていくというふうなところは、今の世の中、教育界の最先端はグローバルと言いまして、グローバルであり、ローカルである。そのローカルを基盤にしたグロ

ーバルというふうなことで、グローバル時代というふうには最先端では言われているんですね。そういう意味では、やっぱりグローバルのつながる先というのは、もしかしたら小中保護者だけではない視点ではないかなというふうに感じながらその話を聞いておりました。これも10年後にということだけではなく、どこかでよりよい宮代町をつくっていく上で、また考えていければなと思っております。

続いて、次のページに行きたいと思います、5ページ目「学校施設」。

これはもう特色ある校舎、これはもう名前は敢えて出しませんが、私がちょっとお話を伺っていて感じたのは、これだけ有名な学校施設にもかかわらず、宮代町の町民でこの学校に入ったことがある人というのは余りいないということをこのとき初めて気がつきました。この特徴ある建物は、全国から見学に来るような建物であるにも関わらず、そのことについて余り詳しく知らない、町が知らない、もったいないなというふうに思ったんです。ましてやほかの学校はましてや学校の名前しか知らない、場所しか知らないというふうなことであるという、もう少し考えていったほうがいいかなという感じはしましたが、どちらにしてもそれぞれの学校が、この学校だけでなく、全ての学校から校舎への愛着、その歴史のある学校は歴史のある学校をどのようにして床を磨くかとかですね、新しい学校は新しい学校として、全ての子供たち、先生方が誇りと愛着を持っていることがわかりました。これはやっぱり大事にしていかなければならないなど。これから先、統合とか、そういうのがあったとしても大事にしていくスピリッツを大切にしていかなければいけないというふうに思いました。

それから、校庭も学校それぞれですけれども、やっぱり広いほうが良いという、当たり前のことが出ています。それから、安全安心、さっき言いましたので飛ばさせていただきます。

検討事項としては、ちょっと老朽化の問題というのがありまして、それから狭い敷地、空調の問題ですね。最近とても暑い日が続いておりますので、やっぱりクーラーが必需品になっていきました。そのあたりを考えた校舎づくりをしていかなければいけないんだと思います。

あとは、そういう話の中で予算の話が出てきました。これはもう読んでいただくだけにしたいと思います。

続いて、7ページ目に行きたいと思います。「地域との連携・交流」、これもさっきも申し上げましたけれども、地域との関わりはよその地域に対して大変密ではないかというふうには私はよそから見て感じております。それで、密で、そしてまた地域の人たちがいろいろ気づけるんですけれども、治安がそんなに悪くないと思うんですね。そこところは全然問題なくやっつけていると思います。

そのPTA組織が地域で学校を支える体制づくりの中に、やっぱりPTAというのはとても大きな位置を占めていて、それで、お金の問題であるとか、それから、コミュニティの中核であるという意識を持って、PTAの人たちも活躍できるというか、そういうふうな可能性が出てきました。

このPTAのお話を聞いていて私が感じたことというのは、それぞれの学校のPTAがそれぞれの学校で独自にとっても頑張っていて、そして独自の活動をいろいろやっつけていっていることなんですね。そういう中で、PTAではちょっと限度がある。それから、PTAで要するに、ほかの学校が何をしているかということとはそんなに連携がないというか、そういうふうな話の中でちょっと出てきたのが、こういうふうなPTAの活動なども、それから地域の人たちなども、支援するような広域財団法人だとかNPO法人だとかをつくって、そしてそういうふうなところで全体をどんと支援するというようなことというのはできるのではないかな。実際にNPO法人をつくることによって学校を支援している地域は、いろんな形で全国で事例があるので、そういうふうな育成会みたいなことがあって、そしてその個々の

P T Aが活動できるように、ある程度予算ももらいながら、地域全体で保護者、地域が学校を支えるという仕組みがつかれないものかというふうなアイデアが出てきました。

これは、やるとすれば、全国に先駆けた事例にもなるのではと思います。これもちょっと今回の委員会の趣旨のど真ん中ではありませんが、みんなで話し合った中でこういう意見が出たことがとても貴重なことだと思いますし、もしかしたらど真ん中ではないけれども、これから先、この地域全体の教育を再編成していくというときに、こういう組織があると、とてもいい働きをするのではないかというような印象を持ちました。

すみません、私見もちょっと入りましたけれども、全体のご報告をざっとさせていただきました。補足説明、あるいは修正などがありましたら、よろしくお願いします。

○船橋会長 ありがとうございます。皆さん、本当にご苦勞をおかけしました。

○和井田委員 本当にありがとうございました。

○船橋会長 これは私の感想ですが、聞いている皆さんから非常に丁寧なご報告をいただいて、さてこれはどうしたものかなと思っていましたら、事務局からこういう資料が出てまいりました。それで一番申し上げましたが、私たちの重要な答申のほうに入っていくときに大事なキーワードが、ここらあたりから生まれてくるように思います。委員の皆さんのほうから内容についてご質問、それから新たに委員としてのお考えがありましたら。

○和井田委員 参加した皆さんも、ちょっとそういう意味じゃなかったとかありましたら、どうぞおっしゃってください。

○山田委員 すみません、その前にちょっと誤字の訂正だけよろしいですか。資料2ページ下から4行目、「支援席」のセキは戸籍の「籍」です。それから、後ろの方は「コーディネーターも置いている」の誤りかと思います。「支援籍」については埼玉の状況は全国のトップレベルで、ですから、ここをきちんとやっておいたほうがいいです。

○船橋会長 この資料はホームページで公開しますので。

○井上室長 その際には修正しておきます。

○船橋会長 お願いします。ありがとうございます。修正、補足、P T Aの皆さんどうぞ。

○蛭間委員 資料4ページ、笠原小学校の学校像を「花と語り、風とうたい」に改めてください。

○鈴木委員 その上の「防災キャンプ」の事例なんですけど、サッカーボールを敷いては寝ていません。サッカーゴールを倒してブルーシートをかけて、そこを寝床として寝ているんです。

○大塚委員 それと学校名は、幸手の吉田小ですね。

○船橋会長 「サッカーゴールを利用して」という表現に訂正をお願いします。それでよろしいですか。
〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 ありがとうございます。訂正のほうは事務局にお願いをします。

○井上室長 はい、承知しました。

○船橋会長 ほかにございますか。今までの説明でぱっと浮かんでくるのは「子供たちを町全体で育成する」、それから「みんながわかる教育目標がある」、それから「どの学校もみんなうまく学校教育をやっている」、何かそんな自慢できるものが見えてきました。反面「校舎の老朽化」、これもあるということで、老朽化の中には東小のように木造の校舎もある、大事に残したいなという一面、もっとよくしてもらいたいなという本音はあるということでもあります。

さて、追加事項がございましたらどうぞ。特にPTAの教育の担当のグループの皆さんはよく精査していただきたいと思います。

○蛭間委員 では6ページ、「協力費でミストシャワーをとったり」の表現を改めた方が良いかと。

○船橋会長 これは「とったり」というよりも「設置したり」ですね。

○蛭間委員 前の5ページ「建物」のところ4行目、インフルエンザに「なりづらい」に改めましょう。

○船橋会長 蛭間委員さん、今の2つでよろしいですか。

○蛭間委員 はい。

○船橋会長 鈴木委員さん、何かありますか。

○鈴木委員 大丈夫です、今は。

○船橋会長 大丈夫ですか。他の委員さんはいかがですか。
〔「大丈夫です」と言う者あり〕

○船橋会長 よろしゅうございますか。
〔「はい」と言う者あり〕

○船橋会長 それからもう一方、よろしゅうございますか。PTAのほうの委員さんはほぼ合格点ももらったようですけれども。

○平井委員 5ページ目の「次の世代に残しておきたい木造校舎もある」と、ここだけ（東小）と入っているんですけれども、これは……

○井上室長 （個有名は）外したほうがバランスとれると思います。

○船橋会長 では、とってしまいますか。

○井上室長 どうしても意見上、学校名が入らざるを得ない場所が出てしまうんですけれども、これが絶対ということではなくて、「（宮代町の）ひとつの特徴」として捉えていただければと思います。

○船橋会長 和井田委員さんが冒頭におっしゃったように、校名を一応伏せた形でというのを基本にしていますので。ありがとうございます。

○野口副会長 確認ですけれども、「スクールガードリーダー」は県で配置をしているのでしょうか。県が委託をして町内の方にもやってもらっているという考えでいいんですね。

○渡邊課長 そうです。

○船橋会長 では、全体の意思決定をしたいと思いますが、座長の和井田先生、いかがですか。

○和井田委員 全体の意思決定ですか。

○船橋会長 これは公開しますので。文面はさっき訂正事項がありました。

○和井田委員 もしかしたらもうちょっと修正するかもしれないです。

○船橋会長 では、その最終調整は和井田委員さんと事務局でお願いします。

○和井田委員 では、事務局と微調整をしていきます。

○船橋会長 そうしてください。

○鶴見委員 公開となると異論が出てきます。2ページ目の「キッズISO」、これ御飯を残さないために始めているテーマでもございませぬし、これだけが結果的に効果になったということではございま

せんし、内容、目的から全然書き方が変わると思います。

○和井田委員 そうですね。私も実はこれを公開するところまでは余り考えていなかったのです。はい。だから、公開するとなるともう少し……

○船橋会長 そうですか。

○船橋会長 そうなると、この資料は会議資料でとどめておくかどうか、もうちょっともとに戻って、ワーキンググループの議事録というか、記録という意味で出てきた内容と、これは僕の少し先走りでしたかな、考え方の。

○井上室長 （会議資料は）基本公開なのですが、グループでの検討過程のものでありますので今後さらにこの内容を詰めていくということで整理をしていただいて、今回は控えるということでもいいと思うんですけども。

○船橋会長 今後考えられるのは、本答申をしたときの資料として列挙するものの中に入る可能性はあると。

○井上室長 ええ、まだ途上だというふうに理解していますので。

○船橋会長 そうなりますと、今、鶴見委員さんがおっしゃったことは、一応留保でいいですか。

○鶴見委員 留保で結構ですよ。結構ですが、公開という前提ならば異論がありますと申し上げただけです。公開するとしたら、この表現内容では全く意味をなさない。

○和井田委員 公開するとなると、さっき言ったように微調整が必要、微調整というか、大分削除しなければならぬところもいっぱい出てくるのかなと思います。

○鈴木委員 鶴見委員さんが言ったのはもっと長いですね。大きな意味があってこれを実践しているという。これだけで30分ぐらいとりましたからね。少なくとも10行じゃないですよ。

○和井田委員 キーワードを公開するという、こういうふうなキーワードで出てきましたということで。

○船橋会長 わかりました。

○井上室長 本日の会議上は、こういった形（レジュメ）でついていますから、これを公開として。資料1は皆さんで協議をしていただいて、最終的にそれをこうそろえていけばと思います。

○船橋会長 わかりました。ちょっと鶴見委員さんに申し上げますが、別資料との関係があります。きょう配付しましたこの横書きの中に、この中に資料1「宮代町の学校教育について」という、これは公開内容の見出しでありますので、この程度の内容に圧縮されます。ということで、今お諮りしているワーキンググループの資料については丸ごと公開は控えるということで、事務局に用意したホームページ用の別の資料がありますので、そこまでにとどめます。保存用の微調整は事務局と座長の和井田先生で調整をしてください。

○和井田委員 わかりました。

○鶴見委員 了解です。

○船橋会長 残り時間が30分を割ってしまいました。あとちょっと要領よくしないとイケませんので、3番目…

○和井田委員 すみません、それでちょっと。今、現状分析が終わりました。それで、特徴の確認というのもある程度今出せたかなというふうに思うんですけども。

○船橋会長 今、引き出せますか。

○和井田委員 特徴というのはこの赤のキーワードです。

○船橋会長 そこは異論がないところだと思いますので。

○和井田委員 そうですね。そして、その後アンケートをして、それから見学をして答申ということなんですけれども、この後の学校教育グループがどんなふうに、どのあたりまで極めていくことを求められているかということ…

○船橋会長 僕のちょっと個人的な考えを申し上げますが、ワーキンググループは、これを今やった内容でおしまいじゃないですね。今、和井田委員さんがおっしゃったような、さてキーワードになっているものが出てきたぞ、それをもっともんで別の言葉で置きかえていく作業がこれからあります。そんなふうに思いますが、和井田委員さん、いかがでしょうか。

○和井田委員 わかりました。じゃ、今ここで、このキーワードが通ったというふうに私は理解して、ここに載っている赤いキーワードと、それから今報告した内容で修正がいただいた以外のところは……

○船橋会長 もうそれは事務局の微調整のみになります。

○和井田委員 OKということでキーワードが通ったので、この中身ですらにどういうふうなところを目指していくかというか、どこが課題かというところをもう少しもんでいくというふうに考えていいですね。

○船橋会長 今、和井田委員さんがおっしゃったことでよろしゅうございますか。今後の方針にちょっとかわりますので。では、教育関係のワーキンググループは、今の内容で次の作業にお進みいただきたいと思うんですけども。

○和井田委員 わかりました。

○船橋会長 ありがとうございます。では、予定しました議題4つのうちの2つが終わりましたので、次は意識調査について、広報のご担当の野口副会長さんをお願いいたします。

○野口副会長 では、広報のほうからご説明をさせていただきます。

このグループの設置についてというところに住民意識調査の内容を検討することと、審議会活動の住民報告を検討することというような2つ、私たちの仕事であります。この上の住民への意識調査の内容を検討することなんですけれども、これもはっきり言って研修に行つてですね、各地域の事例を見てから細部、迫りたいと考えていることと、もう一つ、保護者宛ての意識調査、それとあと住民への意識調査、この2つを考えていることは考えているんですけども、これどういう段階差ですか、一遍にはできないと思うので、時間差的なこととかそういうのを練っていきたいと考えております。まだ、その意識調査のこういう質問というのはまだ、委員の山内さんと私、2人で話し合っている最中ですので、今回は皆さんにお知らせすることはできないんですけども、そこで意識調査は、そこまでしかいっていないということが報告と、審議会の活動の内容ですね。こちら、資料3をごらんください。

こんなあれなのに、カラーでつくっていただきましてありがとうございます。このような形で、町のホームページをクリックすると、こういうような4ページですか、にわたるものが出てまいります。これをですね、見ての話ではあるんですけども、学校内で間違つたうわさというんですか、そういうのがありますよね。そういうのは、ここまで話進んでいますよというのに使っていただければいいのかなというような形で思っております。

今後、視察等、会議等でですね、写真を撮ることがあると思うんです。視察に行ったら、やっぱり視察に行きましたよと、行きますよという告知から、行きましたという報告まで、広報で取り扱っていきたいと思うんですけども、そのときに、皆様のお顔がインターネットに載ってしまうというので、一応ご本人さんの承諾というんですか、というのをちょっといただけたらなというような感じております。そういうことを、はっきりいってPDFになるものなので、顔が鮮明に映るわけじゃないと思いますけれども、これは誰だとわかるぐらいな写真を掲載していきたいと思っていますので、どうぞご承認をいただきたいと思います。

○船橋会長 今の1点はぜひご理解をいただいて、一応私たちの任務は公の任務でありますので、よろ

しくご理解をください。

○野口副会長 以上で報告は終わりです。

○船橋会長 ありがとうございます。これで、一応予定の議題が終わりました。このほかいかがでしょうか。

○井上室長 意識調査について事務局から補足ですが、意識調査自体、対象については今後検討していく必要性もあるんですが、「保護者」は避けて通れないと思いますので、町としては保護者に関してはもう実施する前提で考えたいと思っています。なぜ申し上げたかということ、次、稲敷市に視察に行くことになるんですが、稲敷市は保護者向けのアンケートを実施しています。そういった切り口で今回の視察に臨んでいただければと思いますし、私たちどももそういった資料にしたいと思います。

○船橋会長 ありがとうございます。アンケートいただくのは、保護者の皆さんからいただいていないところはどこもないわけで、それから、つけ加えると、在学している小中学生の皆さんにも全員に聞いている町もあります。

○船橋会長 それから、幼稚園、保育園の保護者の皆さんに聞いているところもあります。というのは、九州の福岡の町では、向こう6年間の児童生徒の数の推計をやっております。その中に資料で。ちょっと宮代の学校の通学の、学校の選び方が、ここは自由でありますので、他の市町とかもその区域が決まっているところは選びやすい、そういう事情もあります。さて、そうしますと、うまいことに20分時間ができました。早く終わるか、あるいは学校教育関係のほうをちょっと引き戻して、次回の開催の、その辺の目安を立てていただいて。つまり11月に開くことになりますね。

○和井田委員 多分、12月じゃないかと思っていたんですが、視察が終わってから。

○船橋会長 終わってから。そうすると、視察が12月の頭のほうに来る気配があるね。

○和井田委員 なるかもしれないので、12月の中盤以降に、今回の話し合いの内容と、内容をまたちょっとキーワードをコンパクトにしたものを少し事務局とまたつくってみますので。

○船橋会長 お願いします。大体のその後、日程を考えると冬休みは20日からですか。25日か。

[この間、委員相互の意見により日程を調整]

○船橋会長 では調整してもらいましょう。そのお世話は、和井田先生お願いします。

○和井田委員 はい、本日の会議が終わりましたら、グループの方は残っていただきたいと思います。

それでその中身ですが、この表を見ていただければわかるんですけども、本当もう時間がないので少し。予定スケジュールの表ですね。表を見ていただいて、ちょっと表記させていただいたのは、きょう10月で成果の報告をやりましたよね。それで、11月がそうするとポッカリ空くんですけども、ここは視察を受けてからということで、12月にワーキンググループ会議で、それでそこで何をやるかという、キーワードをまとめた中で、ここだけは大事にするぞというところを少し押さえるということと、それからもうここだけは大事にするよというところで、もう今からやったほうが良いところも含めてですね、ちょっと大事にしなければいけないこと。それから、今やられて大事にすること、それから、今やられていないけれども大事にしなければならないこと。それから、その視察を受けてだとやりやすいのが統廃合の際に、をやるのであれば、うちのその宮代だとどういうふうなところを気をつけていかなければならないかというふうな感想なども、ご意見ですね、ちょっと出していただくというふうな感じになると思います。

それで、それを12月、また事務局とまとめまして、1月の審議会にそれを報告するというふうな形になると思うんです。そういうふうなわけですので、この審議会はあと、4月にも審議会がありますけれども、何か人が変わってしまったりということもありますので、一応その1月の審議会までにこのメンバーでまとめられるところをまとめて出したいなというふうに思うんですけども。

そうすると、この12月に話し合うということというのは、多分2、3時間じゃ済まない、4時間ぐらいは見ておいて、早く終わったらラッキーぐらいで考えたほうが良いかなという気がしました。

一応そういう流れで出していきたいというふうに思うんですけども、事務局のほうはそういう心づもりでよろしいでしょうか。

○井上室長 はい。

○和井田委員 では、そここのところが共通していただければ、あとは学校教育ワーキンググループに入っていただければ、それから参加していただける方、ちょっとここへ残っていただいて、それで日程を詰めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○船橋会長 では、ちょっと後で教育関係のワーキンググループ、ちょっと調整いただくことにして、審議会の本日の予定した議題は終了ということでよろしゅうございますか。

では、山田委員さんのほうからどうぞ。

○山田委員 蒸し返すようで申しわけないんですが、先ほどの視察のこの質問事項で「小中の連携」の項目を違うところに持っていきましたけれども、私はやっぱり教育現場にいた者として、小中の連携というのは非常にこれ大事だなと思った次第でした。やはり連携といっても、いろんな意味の連携があると思うんですよね。だから、通学区域に入ってしまうと、意味合いが異なってしまうものですから、できればもとに戻していただければなと思ったんですけども。

○船橋会長 修正のお考えですが、和井田委員さん、いかがですか。僕は余りこだわらないんですけどもね。統合再編ということが言葉を冒頭にかぶせてしまいますと、話が小さくなってしまいうんですね。

○井上室長 わかります。双方理解するんですが、視察の趣旨を考えた上でどういう連携を図っていくのかというオプションになってくると思いますので、決して軽んじるわけではないですが、そういった質問になってくるとは思います。いずれにしても聞くことは聞きますので。

○船橋会長 もちろん聞くんですがね、力点をどこに置くかによって大分変わってくるんですよ。それから、受けるほうの準備のほうも大分変わってくるんですよ。元に戻してですね、例えば一番極端な話、当校は徴収連携教育をやっておりませんといったら一言で終わってしまうのね。

○井上室長 提案ですが、具体的に連携についてという聞き方をしても出ませんから、何を聞くかを教えていただければ、それを加えたいと思います。

○船橋会長 そうですか。

○鶴見委員 小学校にあわせて中学校も編成を考えておられるか否かという程度じゃないかなと僕は思います、いかがでしょうか。

○井上室長 その言葉がわかれば、それをお載せしたいと思いますし、視察先もそのほうがやりいいと思います。

○船橋会長 そうですか。時間が迫ってしまいました。では、今の山田委員さんのお考えを、ちょっと中途半端な取りまとめで恐縮ですが、一応議事録は、さっき申し上げた調整したままに残しておいて、今、事務局のほうからちょっとお考えが示された、どんなキーワードで聞きますかということでしたね。その調整が可能ならば、これはもう大丈夫ですから。

○井上室長 それを事前に用意します。

○船橋会長 調整していただいて。

○井上室長 予めお示しするのがベストですが、当日何うということもできないわけではないですから。

○船橋会長 それは大丈夫だと思いますが、少し余裕のある考えでまとめておきたいと思います。

○井上室長 もしよろしければ、予定期日までに私の方に言葉として「これを入れて」というのがあればいただいて、調整します。

○船橋会長 では山田委員、今の点はもう一度お考えいただいて、事務局に説明してください。では、議事録のほうは先ほどの取りまとめの内容のままにしておきます。その末尾に、事務局にお願いをしま

す。さっきのところ、小中連携についての末尾に「要調整」と書いて入れておいてください。

○井上室長 わかりました。

○船橋会長 それでは、これにて閉会にいたします。 ご協力ありがとうございました。

5. そ の 他 な し

6. 閉 会

○船橋会長 それでは、大変長時間ありがとうございます。

第3回目の審議会については、これにて閉会にしたいと思います。